

第1回 酒田港カーボンニュートラルポート（CNP）協議会 議事概要

日 時 : 令和4年10月7日（金）14:00～16:30

場 所 : 酒田市勤労者福祉センター 3階多目的ホール

【議事概要】

- 協議会規約について事務局（山形県）が説明し了承された。
- 「酒田港 CNP 形成計画の策定に向けて」事務局（東北地方整備局酒田港湾事務所）より説明した。
- 「酒田港 CNP 形成計画について」及び「協議会の今後の進め方について」事務局（山形県）より説明した。
- 次回は、12月23日（金）に開催予定。

【意見交換での主なコメント】

- 2050年までの長期的な計画となってくる。短期・中期・長期の時間軸をしっかりと定めて議論し実現性を図っていくべき。
- 水素ステーションの設置について、国・県・市の支援が必要であり、規模、予算、採算について情報を共有し検討したい。
- 運送車両のFC化、燃料調達方法、コスト、荷主の認知度等、理想と現実をどのくらい近づけるのかを勉強し努力する必要がある。
- エネルギーの問題は幅広い分野である。この協議会を通じて地域振興と脱炭素の両輪が噛み合うような議論をしたい。
- 中長期的なところでエネルギーの媒体として、水素、アンモニア等を含めて地域貢献できればよい。
- CO₂を削減していかなければならない中、課題が具体的になってきたことに対して、特定の企業の負担が大きくなってしまわないか懸念している。事業者が補助金や投資でどこまでできるか検討していただきたい。
- 1企業だけでは設備投資は慎重になる。グループ毎にまとまって資金や補助金等の公的な資金を使えるように検討していただきたい。
- さまざまな技術的な課題があるが、物流プロセスの中でCO₂排出量の可視化を進め独自の目標年次を設定しカーボンニュートラルの取組みを進めている。

- 水素と CO2 の合成燃料が話題となっており次世代燃料のつなぎになり得るのではないか。災害時にも対応できるよう、港湾を中心とした水素関連産業の集積イメージの中に合成燃料プラント建設を入れていただきたい。
- 港を中心とした取組みをする中で、一般市民も含めてカーボンニュートラルへの関わりについて実効性のある取組みをしていきたい。
- 化石燃料を使用している分、グリーンカーボンを活用し CO2 を削減する取組みを行っている。
- カーボンニュートラル実現のためには、電気・水素が必要不可欠であると考える。
- 経営計画の中で脱炭素、カーボンニュートラルに力を入れている。
- 先進的な取組には補助金等の活用・支援が必要なので情報提供した方がよい。
- 事務局だけでなく企業も一緒に CNP 形成計画を作成するという気持ちが重要。再生可能エネルギーの余剰電力をいかに地元で利用していくかなど、地産地消の形成に向けた取組みを皆で考えていければよい。
- エネルギー産業関連が集積され地元企業が参入していくことで、産業振興に資する効果がある。
- 将来の需要と供給の方向性を見据えた絵姿を共有する良い機会。地域の特性を活かした事業に繋がるよう期待したい。
- 輸送船舶について、水素、アンモニア等への燃料転換の方針を示し検討されている。
- 全国の港で CNP 協議会があり、他港との連携も考えられるのではないか。
- 水素の利活用はカーボンニュートラルの実現に向けて欠かすことのできない重要な手段であると認識している。水素ステーションについて幅広く意見を聞きたい。
- 課題も挙げられたが全体的に前向きで建設的な意見を共有することができた。アンケートやヒアリング内容を集約し整理していきたい。